

6日 土曜

列王 I

2:13 あるとき、ハギテの子アドニヤがソロモンの母バテ・シェバのところにやって来た。バテ・シェバは「平和なことですか」と尋ねた。彼は「平和なことです」と答えて、

2:14 さらに言った。「お話ししたいことがあるのですが。」すると彼女は言った。「話してごらんなさい。」

2:15 彼は言った。「ご存じのように、王位は私のものでしたし、イスラエルはみな私が王になるのを期待していました。それなのに、王位は転じて、私の弟のものとなりました。

【主】によって彼のものとなったからです。2:16 今、あなたに一つのお願いがあります。断らないでください。」バテ・シェバは彼に言った。「話してごらんなさい。」

2:17 彼は言った。「どうかソロモン王に頼んでください。あなたからなら断らないでしょうから。王がシュネム人の女アビシャグを、私に妻として与えてくださるように。」

2:18 そこで、バテ・シェバは「いいでしょう。私から王にあなたのことを話します」と言った。

2:19 バテ・シェバは、アドニヤのことを話すために、ソロモン王のところに行った。王は立ち上がって彼女を迎え、彼女に礼をして、自分の王座に座った。王の母のために席が設けられ、彼女は王の右に座った。

2:20 彼女は言った。「あなたに一つのお願いがあります。断らないでください。」王は彼女に言った。「母上、その願い事を聞かせてください。断ることはしませんから。」



2:21 彼女は言った。「シュネム人の女アビシャグを、あなたの兄アドニヤに妻として与えてやってください。」

2:22 ソロモン王は母に答えた。「なぜ、アドニヤのためにシュネム人の女アビシャグを願うのですか。彼は私の兄ですから、彼のためには王位を願ったほうがよいではありませんか。彼のためにも、祭司エブヤタルやツェルヤの子ヨアブのためにも。」

2:23 ソロモン王は【主】にかけて次のように誓った。「アドニヤがこういうことを言ってもなお自分のいのちを失わなかったなら、神がこの私を幾重にも罰せられるように。」

2:24 【主】は生きておられる。主は私を父ダビデの王座に就かせて、私を堅く立て、約束どおり私のために家を建ててくださった。アドニヤは今日殺されなければならない。」

2:25 こうしてソロモン王は、エホヤダの子ベナヤを遣わしてアドニヤを討ち取らせたので、彼は死んだ。

アビシャグはダビデに仕えていた女性で、彼女を妻にするということは、ダビデ王の威光を自分のものとするということです。すなわち王位を自分のものとするということになり、すなわちソロモンを敵として蹴落とすことを意味するのです。

ソロモンは、1章においては無駄な戦いを避けて、アドニヤを赦しましたが、今回は彼を除く決断をしました。王国に分裂と血をもたらすことがわかったからです。平和を作り出しながらも、その平和が脅かされるとき、また人の命に関わるときは、決断をくださなくてはなりません。現代においては永遠の命を守ることを最優先しなくてはなりません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

